

1 実践の目標

生活と身近な消費者問題との関わりを学ばせながら、消費者としての基礎的な能力を育む。

2 実践の概要

第1学年の実践 生活科『秋祭りおみせやさんごっこ』（幼稚園児との交流）



毎年、1年生が企画をして次年度入学してくる幼稚園児と交流をしている。どのコーナーも園児に買い物体験をしてもらおうとアイデアに溢れており、（幼稚園児）を意識して、計画・準備をすることができた。

第2学年の実践 生活科『ちいきの特産品を知ろう』



【大根の収穫作業】

力一杯大根の収穫作業を行うことで、収穫の喜びを味わうことができたとともに、みんなで協力することの大切さを学んだ。



【れんこん餅作り】

れんこんを使ったお餅作りをJAの方から教えていただき、地元の特産品について学んだ。

第3学年の実践 総合的な学習『寄せ植えをしてバザーで販売体験をしよう』



地域の方に教えていただき、春の花とサラダ菜の寄せ植え作りを体験した。花を植え付ける時の様々な注意点をしっかり聞き、全員で協力して活動した。完成した寄せ植えは、バザー等で販売体験を行い、物と金銭の流れを理解した。

第4学年の実践 社会科『クリーンセンターの見学』

家庭からごみとして出されたものを修理し再利用できるようにしたものを見学することにより、自分たちにとって身近な物である自転車やラジカセおもちゃ類も、少し修理をしたり、きれいに洗えば、まだまだ使うことができることに気付いた。



第5学年の実践 総合的な学習『インターネットを正しく使いこなそう』

インターネットは便利であると同時に、いろいろな危険性を秘めていることや友達同士のトラブルの原因にもなることについて学ぶことにより、相手を思いやる利用方法や消費生活情報の特徴についても考えた。

第6学年の実践 特別活動『おこづかいの使い方を考えよう』

1ヶ月間、こづかい帳をつけて自分のお金の使い方について振り返った。計画的な使い方を考えて生活することで、無駄使いをなくし、環境のことを考えた買い物の大切さを学んだ。

3 実践の成果

本実践においては年間計画を作成することにより、教科・総合的な学習の時間・特別活動など学校におけるすべての教育活動の中で、学年の発達段階に応じた消費者教育を展開し、消費者としての基礎的な能力を育むことができた。また、地域の方々の協力を得られたことで、学校・地域間連携が促進されたことが成果である。